第 41 回全国伝統的工芸品コンクール JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2016

平成 28 年度 全国伝統的工芸品公募展 報告書



平成 28 年度 全国伝統的工芸品公募展 ポスター

主 催: 一般財団法人 伝統的工芸品産業振興協会

後 援: 経済産業省・中小企業庁・日本商工会議所・全国商工会連合会・全国中小企業団体中央会

■開催概要

名 称 平成 28 年度全国伝統的工芸品公募展

第 41 回全国伝統的工芸品コンクール/JAPAN'S TRADITIONAL CRAFT COMPETITION 2016

開催主旨 長い間受け継がれた確かな伝統的技術・技法に、現代生活の様式に合致し、新しいアイディアや

表現を取り入れた市場性のある伝統的工芸品を公募し、魅力あふれる製品の開拓を行う目的で行います。現代生

活で使われるための需要を喚起し、国内だけではなく世界のマーケットにも通じる製品開拓を行います。

募集キーワード 「くらしを潤すアイディアとワザ」

応募期間 平成 28 年 10 月 3 日 (月) ~ 12 月 1 日 (木)

審查会 平成 28 年 12 月 15 日(木) 一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会/東京都港区

審査結果発表 平成 28 年 12 月 15 日 (木)

応募総数 90 工芸品/147 点/134 応募者







審査員

安藤重良	一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会代表理事		
加藤庄平	有限会社丸窯製陶所 代表取締役		
黒 川 廣 子	東京藝術大学 大学美術館 教授		
小泉和子	昭和のくらし博物館館長		
関 根 由 子	有限会社家庭通信社代表		
中内重則	経済産業省 製造産業局 伝統的工芸品産業室 室長		
棚町敦子	「美しいキモノ」エディトリアル スーパーバイザー		
林 克 美	日本伝統工芸士会 副会長		
日 野 明 子	クラフトバイヤー		
増 村 紀一郎	東京藝術大学名誉教授 重要無形文化財「髹漆」保持者		
御手洗 照 子	T-POT代表取締役		
吉田 龍太郎	株式会社プレステージ ジャパン 代表取締役		

山中漆器 蒔絵盃 針谷祐之 (石川県)

古典的な柄ではありながら、木目を生かし、現代人、海外の人にも好まれるデザインの 金蒔絵が際立った作品である。酒器として の品格がありつつもお酒の中で金魚が泳い でいるのが想像でき、お酒を飲む楽しさを 想像させる。



経済産業大臣賞



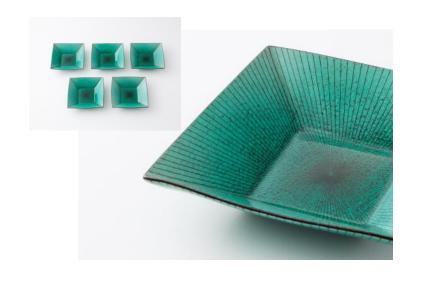
木曽漆器 緑罅塗 摺り仕上げ大皿 たかのり 西野孝章(長野)

栃材の素材を生かしつつも、縁に装飾されたヒビ塗りは置くものを選ばずに引き立たせ、果物、料理など様々な用途が想像できる。ちょうどいい深さで機能的であり、現代生活の中に取り入れやすい。

経済産業省製造産業局長賞

九谷焼 緑彩線文組鉢 宮本雅夫 (石川)

丁寧に作られている器の造形と上絵の縁が美しい作品である。すっきりとしたデザインは現代的であり、細やかな線が美しさと繊細さを醸しだしている。和食だけでなく洋食にも合う器となっている。



入賞

中小企業庁長官賞

木曽漆器 「漆塗りカトラリーKOKU(凛)」 かねみつ漆器店 深澤兼司 (長野)

シャープなデザインの中 に日本を代表する素材の 魅力である「艶」や「深味」 を、現代の西洋的な生活の 中で気軽に楽しめ、モダン



なデザインで現代の生活シーンにふさわしい作品である

全国商工会連合会会長賞

備前焼 「備前・スタッキングカップ」 出製陶(岡山)

全てがカラフルになる傾向がある今、備前のその課題をブレークスルーしている。スタッキングできる機能性と魅力感じる



色彩が現在生活を彩るのにふさわしい作品である。

一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞

別府竹細工 「透かし波網代バッグ(煤)」 岡田晃(大分)

伝統的技法を使いつつも竹本来のしなやかさを十分に引き出した作品である。ゆるやかな曲線美と実用性を 兼ね備えている。



特別賞

鍋島緞通 鍋島緞通「星花」「雪待」 吉島ひろ子(佐賀)

図柄が異なる本作品は、生活 の用途に合わせ組み合わせ られる柔軟性が現在のライ フスタイルにマッチし、日本 の風土にあった作品である。



日本商工会議所会頭賞

赤津焼 「赤津焼 7 釉のうつわ」 宮地生成 (愛知)

赤津焼の伝統的な釉薬を使いながらも、生活シーンを楽しく演出してくれる作品である。置物、花生け、ペン立てなど様々な用途で楽しめる。



全国中小企業団体中央会賞

南部鉄器 「丸棗形麻の葉模様」 佐々木奈美(岩手)

男っぽい印象がある鉄瓶に 幾何学模様を組み込むこと で繊細さが表現されてい る。錆色とよく合い、使い 込むほどに味わいが増す作 品である。



日本伝統工芸士会会長賞

大館曲げわっぱ 「白木飯器 5寸、6寸、7寸」 柴田昌正 (秋田)

曲げわっぱのおひつと して現代的な試みの提 案があり、伝統と現代の 融合を感じる作品であ る。内底の隅丸加工が魅



力を引き出し、実用性とデザイン性を内包している。

特別賞

唐津焼 「絵唐津草文向付」 唐津屋太兵衛 (佐賀)

唐津らしさで真っ向勝負されたこの作品は、土から古唐津を 再現したものである。 唐津伝統の鋳絵は料理を引き立たせ、機



能性と市場性を内包した作品である。

入選(35点)

織物	(7点)		漆器	(7点)	
群馬	桐生織	泉太郎	長野	木曽漆器	有賀俊一
東京	蓮糸織	斉藤佳代子	石川	山中漆器	針谷祥吾
新潟	十日町明石ちぢみ	吉澤武彦	石川	山中漆器	針谷崇之
滋賀	綴錦	清原聖司	石川	輪島塗	藤野靖男
岡山	烏城紬	須本雅子	石川	輪島塗	吉田宏之
佐賀	鍋島緞通	吉島一隆	岐阜	飛騨春慶	山﨑賢治
鹿児島	本場大島紬	たけがわ織物 竹川忠克	香川	香川漆器	金倉輝明
染色品	(1点)		木工品	(2点)	
山形	柿渋染	工房千倉 木島由美子	広島	宮島細工	永谷早登
その他繊維製	製品 (1点)		広島	宮島細工	博多努
奈良	日本刺繍	谷橋真由美	金工品	(3点)	
陶磁器	(9点)		岩手	南部鉄器	大村敏宏
茨城	笠間焼	佐藤剛	岩手	南部鉄器	高橋大益
石川	九谷焼	髙明	東京	東京彫金	宮下俊之
愛知	赤津焼	稲垣鑛作	仏壇・仏具	(1点)	
滋賀	信楽焼	小西啓吾	福岡	仏壇	お仏壇のコガー古賀和子
滋賀	信楽焼	小西啓吾	文 具	(2点)	
島根	石見焼	螺山勝實	広島	熊野筆	實森将城
山口	萩焼	小川浩延	長崎	若田石硯	岩坂治人
鹿児島	薩摩焼	眞窯 原田眞利子	諸工芸	(2点)	
沖縄	壺屋焼	旬 育陶園	岩手	編み組み細工	八幡義友
			沖縄	琉球ガラス	㈱沖縄ゴールデンファーム

応募概要

業種	応募作品					応動	幕者	
	指定	非指定	産地計	出品数	男性	女性	企業/団体	計
織物	9	8	17	26	11	12	0	23
染色品	3	3	6	12	6	3	0	9
その他 繊維製品	0	3	3	4	1	3	0	4
陶磁器	13	2	15	27	20	2	2	24
漆 器	9	1	10	24	23	1	0	24
木工品	3	3	6	10	8	1	0	9
竹工品	1	0	1	4	3	1	0	4
金工品	3	1	4	8	6	1	0	7
仏壇・仏具	2	2	4	5	4	1	0	5
和紙	1	1	2	2	1	1	0	2
文具	1	1	2	2	2	0	0	2
貴石細工	1	0	1	1	1	0	0	1
人形・こけし	1	1	2	2	2	0	0	2
諸工芸品	1	16	17	20	13	3	2	18
合 計	48	42	90	147	101	29	4	134
指定=経済大臣指定伝統的工芸品,非指定=経済大臣指定を受けていない工芸品								

平成28年12月15日、平成28年度全国伝統的工芸品公募展の審査会が一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会において開催されました。

本年は応募要項を変更して出品資格に制限を設けました。生業として伝統的工芸品やこれに準じる伝統工芸品産業に携わる者として、カルチャー・個人教室の受講者、学生は対象外としたため、出品総数は昨年より 42 点少ない 147 作品を審査することになりました。審査方法は公表された審査委員の先生方 1 2 名を技術部門とバイヤー部門を担当する委員に分けました。委員は部門に基づき一人につき 1 5 点以内を選出し、2 票以上の作品を「入選」とし、未満の作品は「入選外」とした結果は 101 点が選外作品となり、4 6 点が入選になりました。次に受賞候補となるノミネート作品は、賞の数が 1 0 本なので、2 0 点を受賞候補作品として選出しました。

受賞作品の決め方は審査委員がそれぞれ 1~3 位の作品を選び、「技術・技法」「デザイン性(現代性・独自性)」「機能性の高さ」「市場性の高さ(琴線に触れる価格)」を確認してから併せてコメントを記入して、その総合点を基に入賞作品を決定しました。

受賞作品10点の中から、〈内閣総理大臣賞〉には石川県の針谷祐之氏、山中漆器の「蒔絵盃」が選ばれました。盃の素地は山中漆器が誇る轆轤が薄挽きで軽く見事な出来映えです。五個組のうち二つが木目の見える透明塗りのため、残りの盃も木製品を暗示するようです。蒔絵の文様も酒を注ぎ入れれば、花びらや雪輪が浮かび、金魚が泳ぐ、楽しい酒の宴が想像できます。〈経済産業大臣賞〉には、長野県の西野孝章氏、木曽漆器の「縁罅塗 摺り仕上げ大皿」です。今の時代に天然木で比較的大振りの作品ですが、栃の木を轆轤挽きした素地を作り、縁の部分には黒漆を塗り、かつて刀の鞘塗りに用いた技法で罅(ヒビ)をつくることで、補強しながら粋な塗りの表現です。器全体は黒みを帯びた摺り漆仕上げなので、料理や皿や盛器として使いやすいでしょう。〈経済産業省製造産業局長賞〉には石川県の宮本雅夫氏、九谷焼の「緑彩線文組鉢」です。青みを帯びた緑の釉薬の中に放射状に黒線を描く、都会的な感覚の作品です。どのような料理とも仲良くなれそうな器といえます。

〈中小企業庁長官賞〉には、長野県の深澤兼司氏、木曽漆器の「漆塗りカトラリーKOKU(凛)」はステンレスのナイフ・フォークに黒漆を焼き付けた仕事で、この作品も都会的なセンスを感じると思う。〈日本商工会議所会頭賞〉には、愛知県の宮地生成氏、「赤津焼 7 釉のうつわ」は洒落たユーモアを感じる。〈全国商工会連合会会長賞〉には、岡山県の出製陶さんの「備前・スタッキングカップ」は備前焼の伝統的な色に挑戦して五色で制作、現状打破の心意気を感じます。〈全国中小企業団体中央会会長賞〉には、岩手県の佐々木奈美氏の南部鉄器「丸棗形麻の葉模様」は、いま中国でブームとなっている鉄瓶です。伝統的なデザインの出品作品ですが、今後は一般家庭向け IH コンロの普及を考えたらいかがでしょうか。〈一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会賞〉には、大分県、岡田晃氏の別府竹細工「透かし波網代バッグ(煤)」は、今年の春~夏は多くの女性に人気となることを期待します。〈日本伝統工芸士会会長賞〉には、秋田県の柴田昌正氏の大館曲げわっぱ「白木飯器 5 寸、6 寸、7 寸」は、三種類の飯櫃です。秋田杉の木肌色と綴じ目に使った桜皮の模様が美しい。〈特別賞〉には、佐賀県、吉島ひろ子氏の鍋島緞通「星花」「雪待」は、江戸時代からの技術を継承していますが、今の生活・建築様式にマッチした模様が美しい。同じく〈特別賞〉には、佐賀県、唐津屋太兵衛氏の「唐津絵草文向付」は、温かみのある形と釉薬の色がホットする気持ちになります。

かつて、鉄道の旅で車窓から見える住宅は、地元の大工さんが建てた家であるな~と想像したものです。現在は住宅展示場に建 ち並ぶ大手のメーカーが建築した物になった気がします。このことから地方性が薄れ都会風になり、和から洋風への変化が見られ ます。

この公募展の出品資格者たちは、日本各地から応募されています。昨年との違いは作品の傾向が都会化しているように感じました。

入賞・入選した46点の作品展を行いました。

会 期 : 平成28年12月25日(金)~平成29年1月6日(水) 会場: 伝統工芸青山スクエア/東京都港区







<アンケート実施報告>

会場で来場者にアンケートを実施し、投票数の多い作品は以下となります。

アンケート参加者人数: 186名

順位	工芸品名	作品名	氏名
1位	蓮糸織	古代素材と現代の融合	斉藤佳代子
2 位	琉球ガラス	琉球酒器	株式会社沖縄ゴールデンファーム
3 位	壺屋焼	· 医屋焼	
5 <u>1V</u>	木曽漆器	漆塗りカトラリーKOKU(凛)	かねみつ漆器店 深澤兼司

新聞および雑誌の掲載記事

※1月末までに確認できたもののみ掲載

Discover Japan 3月号 (入賞作品およびアンケート結果)









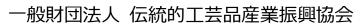
新聞社	掲載日	掲載内容		
北陸新聞	12月27日	針谷祐之、宮本雅夫、その他入選者		
岩手日報	12月26日	佐々木奈美		
大分合同新聞	1月17日	岡田晃		
北陸新聞	1月10日	針谷祐之、針谷崇之、針谷祥吾		
読売新聞	1月5日	岩坂治人		
秋田魁新報社	1月8日	柴田昌正		

陶業時報 1月5日 (針谷祐之、西野孝章、宮本雅夫)



北陸中日新聞 12月29日 (針谷祐之、宮本雅夫)







東京都港区赤坂 8-1-22 赤坂王子ビル

TEL 03-5785-1001 FAX 03-5785-1002

kikaku@kougei.or.jp http://kougeihin.jp